

教育長定例記者会見記録（令和7年7月10日（木）13:30～13:55）

○報告事項

教育委員会7月定例会について

○質問項目

- 1 「TGC KAGAWA 2025」開催に伴う効果等について
- 2 熱中症特別警戒アラートについて

総務課長）

それでは定刻となりましたので、教育長の定例記者会見を始めさせていただきます。

まず、本日開催いたしました教育委員会7月定例会につきまして、淀谷教育長より報告させていただきます。

教育長）

本日の教育委員会定例会の内容をご報告いたします。議案が2件、その他事項が1件でございます。

議案の1件目は、専決処分事項の承認（令和7年6月香川県議会定例会に提案された教育委員会関係議案（追加提案分）に対する意見について）でございます。

6月県議会定例会に追加提案された教育委員会関係議案について、知事からの意見聴取に対し、私の専決により異議が無い旨の回答をしたことの承認を得たものでございます。

議案の2件目は、令和8年度香川県立高松北中学校入学者選抜要綱についてであります。

お手元に資料提供してございますが、令和8年度の香川県立高松北中学校入学者選抜の基本的な事項を定めた要綱についてお諮りしたものでございます。

また、令和3年度入学者選抜から開始しております、高松北中学校における全国からの生徒募集についても、昨年度と同様に実施いたしたいと思っております。

その他の報告事項として1件。令和8年度香川県公立高等学校入学者選抜における全国からの生徒募集についてでございます。

この件についても、お手元に資料提供してございますが、令和3年度の入学者選抜から開始しております、香川県公立高等学校入学者選抜における、全国からの生徒募集の合格者数の上限について、報告したものでございます。

令和4年度入試から、すべての公立高校と県立中学校で実施しており、実施校は、高校が県立高校29校と市立高校1校の30校、県立中学校1校の合計31校でございます。

公立高校における実施小学科・コース数は67です。合格者数の上限は298名となっておりまして、高松北中学校を合わせると全体で303名となります。なお、これは、県内からの

入学志願者を対象とした入学定員とは別枠で行うものでございます。施設設備の関係や実習を実施することができる人数等を考慮して、物理的に受入れが困難な学科については、実施を見送っております。

今後は、県教育委員会と各校におきまして広報活動を行い、受検生の確保に努めてまいりたいと考えてございます。

以上が、本日の7月教育委員会定例会のご報告になります。

あわせて、県立アリーナの開館記念イベントとして、5月6日に実施いたしました「東京ガールズコレクション TGC香川」開催に伴う効果等がまとまりましたので、お手元に配付の資料に沿ってご説明させていただきます。

まず、来場者数等でございます。

イベント当日は、延べ9,800人が来場し、110万人に視聴いただきました。

また、主催者が実施した来場者アンケートによりますと、来訪者の約7割が県内、約3割が県外という結果でございました。

県立アリーナへの来訪は、来場者の約8割が初めてであり、来場者の約9割以上から「また訪れたい、来たい」という声をいただいたところでございます。

次に、広告換算効果等でございます。主催者の推計によりますと、TGC香川開催に伴う効果は、全体で約25.6億円と見込んでおります。

まず、広告換算効果としては、TGC香川の開催について、テレビや新聞・雑誌、WEBメディアなどの各種媒体を通じて行われた広報活動について広告額に換算したものでございますけれども、本日7月10日現在で、約22.5億円の効果を見込んでございます。

また、経済波及効果については、アンケート結果を基に、平成27年の香川県産業連関表に基づき推計いたしました。この額が約3.1億円でございます。

TGC香川は、冒頭でも申し上げましたが、県立アリーナの開館記念イベントとして、県立アリーナの開館を県内外に周知すること、そして、多くの人に来場いただく機会を提供すること、この2つを大きな目的として実施いたしました。

今回、東京ガールズコレクションの情報発信力の高さを生かして、110万人に視聴いただいて、約22.5億円の広告換算効果が得られたこと、また、9,800人にご来場いただいて、その8割の方にとって新規来場のきっかけになったこと、加えて、地域にも経済波及効果をもたらすことができたということで、当初の目的を一定達成することができたものと考えてございます。

私からの報告は以上でございます。よろしく願いいたします。

総務課長)

それではご質問等ございましたらお願いいたします。

記者)

TGCの件で、広告換算効果等をまとめたのは、県立アリーナ管理運営室ということでしょうか。

教育長)

主催者が推計した結果です。

記者)

東京ガールズコレクションの実行委員会のまとめということですね。

あと、経済波及効果というのは、一般的に言う経済波及効果だと思うんですけども、広告換算効果というのは、県立アリーナを知らしめたという意味でしょうか。

教育長)

県立アリーナを知らしめた部分もあるんですけども、このイベントそのものもそうですし、香川県という地域もそうなんだと思うんですよ。これによって、広報ができたというイメージで考えてございます。

記者)

地域にどれだけその経済的な効果があったかというのは3.1億円ということですね。

ある種お金を払わずして、TGCとかアリーナという、香川県をPRすることができたというのが22.5億円ですね。

改めて、教育長は今回のこの結果を受けて、どう思われますか。

教育長)

地域の経済波及効果は産業連関表で機械的に出ますので、それはそれで一定の経済波及効果をもたらしたことは前向きに受けとめておりますし、広告換算効果として22.5億円という規模は、結構大きい規模かなと思っています。110万人の視聴も、すべて調べたわけではないですが、他のTGCと比べても、結構な数だったというふうに理解しておりますので、当初の目的というものが達成できたのではないかと考えてございます。

記者)

開催のときに主催者に取材したところ、経済効果は県内だけでも10億円の経済効果が見込まれているという話がありましたが、結果的に経済波及効果3.1億円ということで、予定よりも達成度が低いということでしょうか。

教育長)

それはTGCの経済効果ですか。経済波及効果ですか、それとも経済効果ですか。

記者)

経済効果です。

教育長)

経済効果といいますと、広告換算効果と経済波及効果を合わせて25.6億円という受けとめでよいと思います。

記者)

経済効果だと25.6億円で、経済波及効果だと3.1億円ということですか。

教育長)

はい。それでいいのかなど。

記者)

経済効果と経済波及効果の県内・県外それぞれの内訳はありますか。

教育長)

細かい積み上げが手元がないので確認をいたしますが、確かあったと思います。

アンケートから算出していると思います。県内から来た人が何人、県外から来た人が何人、それでどれぐらいの消費が起こっているかというところをちゃんと調べていたと思います。

記者)

確認で、経済効果が10億円を見込んでいるっていうのは、開催前に、教育委員会と主催者側で共通認識があったのでしょうか。

教育長)

10億円という数字は、全く頭にはないです。

平成29年に基本計画を作ったときに、整備の効果として300億円ぐらい、整備後の運用による経済波及効果が年間52億円という、そういうコンサルタントの(話)ですね、それは頭にあるんですけど。TGCの経済波及効果10億円というのは、どこで誰が言ったのかよくわかりません。

記者)

300億円というのはアリーナのということですか。

教育長)

そうです。それは、平成29年の整備基本計画のときに試算した数字でございます。

記者)

平成29年の県立アリーナ整備基本計画の中で、経済効果として300億円ですか。

教育長)

経済波及効果としてです。施設整備に伴う経済波及効果が310億円程度。開館後の来場者の消費見込みなどに伴う経済波及効果が年間50億円余という試算をしております。

記者)

基本計画に基づかれた開館後の経済効果50億円というもので今回のTGCを見たとき、そこそこ（効果はあったのでしょうか）。

教育長)

どうなんですかね。年間が52億円ですから、月に換算したら4億円とか。そんなものなんですかね。1日3億円なんて、結構なところかなという気がしますけれども。全体のものはまだ試算ができる状態では当然ないですから。

記者)

TGCだと若い人が結構多いかと思うんですけど、そういう点で言うと、今後、アリーナの経済効果というものを高めていくとなると、若い人への訴求力のあるイベントを誘致していくっていうことになるんでしょうか。

教育長)

バランスはとらないといけないと思います。公の施設でもありますから。そういうイベントも必要ですし、中学生とか、学生が気軽に使える機会もしっかり確保する必要があると思います。

経済波及効果だけを取り上げて何かアウトカムが出たと、そういうような評価をするだけではないのかなと思っています。

記者)

TGCの効果については、実行委員会側が出してきたとおっしゃっていましたが、これまでの他のイベントの効果については、県教委として調べていたんですか。

教育長)

例えば何についてですか。

記者)

例えばRIZINとか。

教育長)

なぜ、TGC香川の経済波及効果を我々が今日発表しているかということ、県も主催者の1人だからです。

だから、例えばコンサートなどは主催者ではないので、それぞれ経済波及効果というものを発表するつもりは全くない、ということであります。

記者)

先週、熱中症の特別警戒アラートで4つの自治体が休校にすることを言われたんですけども、県として方向性を示したり、何か通知をするというお考えはありますか。

教育長)

通知はしようとは思っていますが、今なお検討中であります。

県は、ほとんどは高校生をどうするかということになりますから、暑いのは非常に命の危険があるというのはわかっていますが、これまでの警報事案、現象の違いとか、そういうのも含めて今まだ検討している状況でございます。

記者)

それは市町の小・中・高校の対応ですか。

教育長)

市町は基本、小・中なので。

記者)

県立高校、県立中学校については方針を定めるんですか。

教育長)

学校で授業するかしないかの権限は教育委員会じゃなくて学校長にあります。そのためメルクマールというか、考え方とかについての通知を行うのかなと思っています。

記者)

同時に進行している市町の小・中学校と県立学校のものを同時に行うんですか。

教育長)

全くないです。

記者)

各校長の判断になるということですがけれども、県立ではない学校の方針についてはどう
いう流れになりますか。

教育長)

県立ではない学校の方針については、それぞれの設置者が考えることであります。

記者)

公立の小・中学校というのもそうですか。

教育長)

そうですね。県が設置していないですから。

記者)

特段そこについて通知を出すことはないですか。

教育長)

それに対する通知はないですが、県がこういうふうな考え方をしているとか、県立学校の
校長先生などにそういうお知らせをしたという情報提供はしていくのかなと思っています。

記者)

県の対応をお知らせするということですか。

教育長)

はい。情報提供ですね。

記者)

それは、今後どういったかたちで、どういう内容になりますか。

教育長)

取りまとめについても、まだ検討していますから。内容が確定次第、県内の県立学校の校
長先生にもお伝えしないとイケないですし、市町の方には情報提供していくのかなと思っ
ています。

記者)

県立学校の対応ってというのは、今検討中ですか。

教育長)

はい。

記者)

どれぐらいを目途に示すとかってというのはありますか。

教育長)

早いほうがいいかなと思っています。暑い日が続いていますから。

記者)

今月中とか。

教育長)

今月というか、もう夏休みに入ってしまうので、できればもっと早めに出せればと思います。

記者)

夏休み前を目指すんですか。

教育長)

夏休み前に出せればと思っています。

前日の14時に出して、ずっとアラートが出っぱなしということですから。結局、35指数全部になって、昨日のように16時か17時に大雨警報が出てもずっと特別警戒アラートが出っぱなしと、そういうようになると聞いていますので、慎重に考えないといけないということで、ちょっと時間がかかっているということでもあります。

記者)

県立学校の対応を検討中ということですが、こういったことを意識してガイドラインを示すのでしょうか。

教育長)

登下校時の安全確保がまず必要だという観点から考える必要があります。一方で、学校の運営管理においては授業を行わないというのは例外ですから、原則によりながら安全確保をどう図っていくか、その観点から検討を深めるのかなというふうに考えています。

記者)

先ほど言われたメルクマール、指標を示すということなんですが、県が1つの方向性を出した時に、学校長は随時、自分の判断でやるやらないを決められるんですか。

教育長)

その通りです。規則がそうになっていますから。

記者)

県がドーンと落としたとしても、それがその通りになるとは限らないということですか。

教育長)

おっしゃる通りです。

記者)

あくまでも指標ということなんですね。県が発表したからといって、県立高校みんなの授業なり登下校なりがそうなるとは限らない。あくまで落とすということですか。

教育長)

そうですね。

休校に決めたことを教育委員会に報告するという、報告行為はございます。

記者)

その判断っていうのはあくまで学校長ですか。

教育長)

学校長です。

記者)

一律的になるわけではないんですね。

教育長)

ないです。

記者)

総文祭が近づいていまして、総文祭はだいたい屋内でやるわけですが、アリーナとかでかなり人が入ったりすると、熱中症も含めて体調管理はかなり難しくなるかと思う。その辺の救護で新たに考えられていることはあるんでしょうか。

教育長)

昨年からのアラートを運用しているんですけど、アラートがあるなしに関係なく、最近夏はやっぱり暑いじゃないですか。そのための対策というのは、救護や救急隊の配置の依頼

など、今考えられることは全てしていますので、基本的には今の対応で十分ではないのかなというふうに考えています。

記者)

熱中症のアラートのことで、結局は各学校の判断にはなると思うんですけども、例えば横に並んでいるくらい近い学校で判断が分かれるなどした場合、保護者の方でも戸惑いが起きたりするんじゃないかなと思います。そういう時でも県教委としては、それよりさらに働きかけをするっていうことはないわけですか。

教育長)

判断にあたってのメルクマールを示すわけですから。(各学校の)状況によって判断は変わるんじゃないかなと思います。

記者)

例えば日曜日にアラートが出た場合に、月曜日に学校があった時にどうしたらいいのかっていうのは、今、県立学校については、特に県教委の方針もない状況ですよ。その場合は何か対応があるんでしょうか。

例えば、この週末の日曜日などに出た場合、月曜日の学校をどうするのかといった時に、県教委としては急いで何か暫定的なものを決めたりっていうことはあるんですか、

教育長)

日曜日までにそういう通知ができれば一番いいかなと思います。いろいろな想定はできるとは思いますけど、土曜日や日曜日に、月曜日から出るとかはわかるわけですから。

記者)

野球の大会も始まりましたが、学校以外での活動っていう部分についても、何か方針として考えることはあるんでしょうか。

教育長)

学校活動であれば、学校管理者がどうするか決めていただくといいかなと思います。

記者)

部活動の大会などもそうですか。

教育長)

学校活動であれば。大会は大会主催者が決めます。

記者)

TGCの関係なんですけど、アリーナへの再訪の意向が、9割ぐらいがもう一度来てみたいということですが、これはどういうふうに受けとめられていますか。

教育長)

いろんなイベントなどがあるわけですから、できればもう少し、100%近くぜひ来たいとかまた来たいとか言っていたらありがたかったんですけども、9割近いということは相当高い数字じゃないかなというふうに思っています。

記者)

(選択肢の)項目は「ぜひ来たい」、「来たい」、「機会があれば来たい」の他にありますか。

教委担当課)

「来たくない」を設けていましたが、回答された方がいませんでした。

記者)

「来たくない」があって、4つだったんですね。それで、「来たくない」が回答なしだったということですね。

教育長)

はい。

記者)

熱中症の件については、逆にどういうことをガイドラインとして設けるんでしょうか。项目的な部分でいうと、こういったことが今考えられるんでしょうか。

教育長)

まずは、学校の授業を行うか行わないかは誰が決めることなんですかっていうことは、改めて共通理解をしなければいけないということがあります。

一方で、特別警戒アラートが運用されて2年目になりますが、今まで全然出ていないんですよね。今年の場合は、早く梅雨明けして、結構暑い日が続いています。出る可能性もあることは念頭に置かなければいけないという、その準備を通知の中にしっかりと書くのかなというふうに思います。

それを前提にした上で、まずは安全というものを考えていただきたいということになるのかなと思っています。

記者)

それこそ休校とか、こういう行動をとるように、みたいなそういう書きぶりではないということですか。

教育長)

そうですね。行動をとるようにというか、検討するようにということですかね。その判断するにあたってはこんな要素も考えていただきたいという、そんな感じですかね。

記者)

それは熱中症特別警戒アラートですか。

教育長)

そうです。

記者)

そのガイドラインを示すということですか。

教育長)

ガイドラインというか、通知ですね。

記者)

これは校長会とかそういうものは開かずに行うのですか。

教育長)

そういうつもりは全くないです。

総務課長)

文部科学省より、本日 14 時から緊急の教育長会議をオンラインで行うと聞いております。申し訳ございませんが、次の質問を最後にさせていただきたいのですが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、教育長定例記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。